

# 株主通信

第70期報告書 | 平成28年4月1日から  
平成29年3月31日まで

## 目次

- ・株主の皆様へ
- ・セグメント別概況
- ・連結財務諸表
- ・クローズアップ <マルナカ>
- ・株式の状況
- ・会社概要・拠点紹介

## 飼は食を司る



 **中部飼料株式会社**

証券コード:2053



代表取締役社長 久光 正郎

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、中部飼料株式会社 第70期（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の株主通信をお届けいたします。

当社グループは、当連結会計年度において6期連続の増収、4期連続の営業及び経常増益を達成し、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益のすべてにおいて過去最高を更新しました。

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益の改善や雇用・所得環境の改善を背景に個人消費に持ち直しの動きがみられるなど緩やかな回復基調が続いていたものの、英国のEU離脱問題、米国新政権の政策動向や新興国経済の減速など、景気の先行きについては不透明な状況が続きました。

飼料業界におきましては、安値で推移していた主原料のとうもろこし価格が、米国中西部の高温・乾燥予報や南米の悪天候などから4月以降急騰した後、米国の大豊作見込みから初夏に下落し、以降は安定的に推移しました。また英国のEU離脱決定を受けて円高傾向にあった外国為替相場は、米国の大統領選以降、大幅な円安に転じました。こうした状況を反映して、飼料メーカー各社は4月に大幅な値下げをした配合飼料価格を7月に値上げ、10月に値下げ、1月に値上げしました。第1四半期は原

## 売上高



## 営業利益



材料価格を上回る値下げとなり、非常に厳しい事業環境でありましたが、第2四半期以降はとうもろこし価格の値下がりや為替相場を反映した価格改定によって原料ポジションが改善し、厳しさが幾分和らぎました。しかしながら、メーカー間の競争はさらに激化しており、厳しい状況は続いております。

このような状況のなか、当社は顧客の利益に貢献する差別化飼料の拡販や前期に締結した日本ハムグループ、伊藤忠商事グループとの資本業務提携を活かして売上拡大を図りました。また、前期に連結子会社化したみらい飼料株式会社を活用し、全国10工場の全体最適化による生産性向上やスケールメリットによるコストダウンで原価を低減するなど利益の改善に努めてまいりました。

その結果、当連結会計年度の業績は、売上高は、畜産飼料の平均販売価格が低下したものの、前期の10月に連結子会社化したみらい飼料株式会社の売上が加わったことなどにより、前期比0.5%増の1,710億54百万円となりました。

営業利益は、畜産飼料販売量の増加や水産飼料が好調であったことなどにより、前期比39.6%増の47億78百万円となりました。

経常利益は、前期比33.7%増の49億91百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比31.2%増の34億23百万円となりました。いずれの増益率も営業利益の増益率を下回った主な理由は、営業外収益に計上した貸倒

引当金戻入額が減少したことや特別損失に減損損失を計上したことによるものであります。

なお、平成30年3月期の通期見通しにつきましては、売上高1,745億円（前期比2.0%増）、営業利益48億円（前期比0.4%増）、経常利益50億円（前期比0.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益35億円（前期比2.2%増）を見込んでおります。

当社はROE引き上げに向けた経営目標である畜産飼料販売量330万トン、売上高営業利益率3%の達成に向けて、以下の方策に取り組んでまいります。

顧客価値を創造するため、お客様との取組をさらに強化し、新製品及び差別化飼料の開発・製造・販売をより一層推進してまいります。また日本ハムグループ、伊藤忠商事グループとの資本業務提携を活かして売上拡大を図るとともに、連結子会社であるみらい飼料株式会社を活用し、全国10工場の全体最適化による生産性向上やスケールメリットを活かしたコストダウンを図ってまいります。

株主の皆様には、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年6月

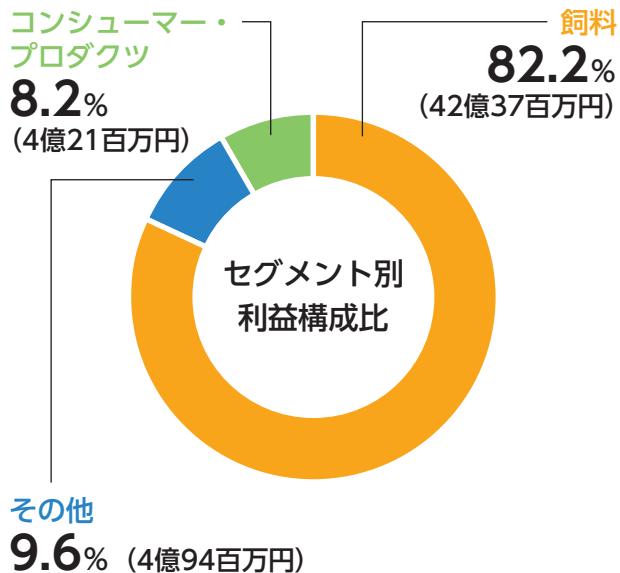
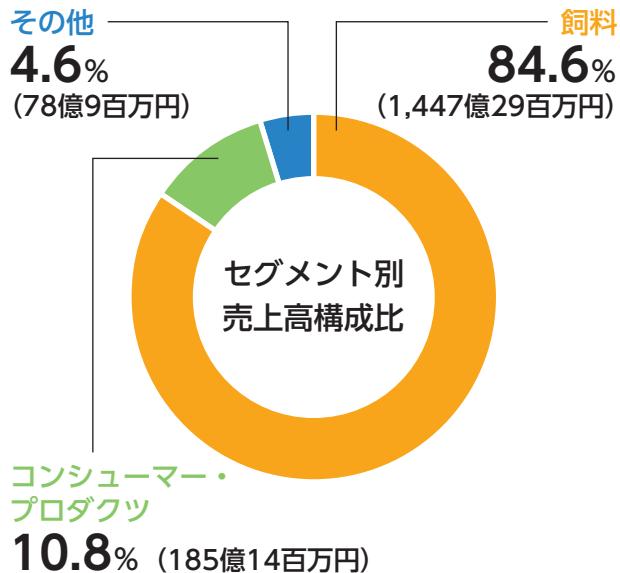
## 経常利益



## 親会社株主に帰属する当期純利益



# セグメント別概況



## 飼料

## 畜水産飼料の製造販売



養鶏用飼料



養牛用飼料



養豚用飼料



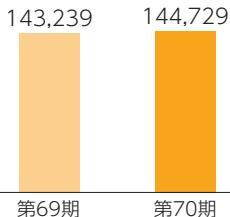
養魚用飼料

### 業績

売上高は、第1四半期の大幅な値下げの影響で平均販売価格が低下したものの、連結子会社化したみらい飼料株式会社の影響や飼料販売量が前期を上回ったことから、前期比1.0%増の1,447億29百万円となりました。セグメント利益は、畜産飼料の拡販や原料ポジションの改善、さらに生臭くなく美味しい魚を作る飼料で水産飼料が業績を伸ばしたことなどにより、前期比40.1%増の42億37百万円となりました。

### 売上高

(単位：百万円)



### セグメント利益

(単位：百万円)



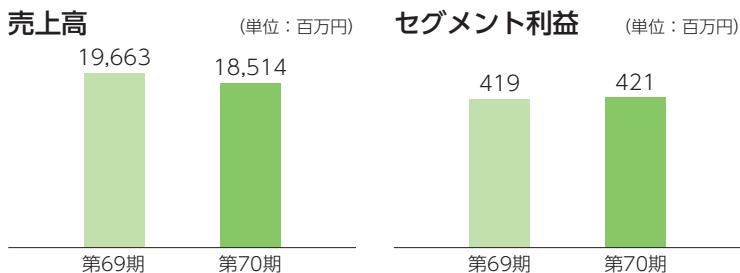
## コンシューマー・プロダクツ

消費者向けの畜水産物の販売、ペットフードの製造販売



### 業績

売上高は、特殊卵やペットフードの販売量が増加したものの畜産物の販売量が減少したことなどにより、前期比5.8%減の185億14百万円となりました。セグメント利益は、特殊卵の販売増がけん引し、前期比0.5%増の4億21百万円となりました。



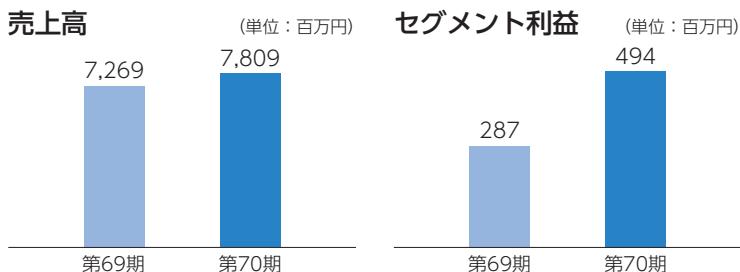
## その他

畜産用機器の販売、肥料の製造販売、不動産賃貸、保険代理業



### 業績

売上高は、前期比7.4%増の78億9百万円、セグメント利益は、前期比72.0%増の4億94百万円となりました。増収増益となった主な理由は、畜産用機器の販売台数が増加したためであります。



# 連結財務諸表

## ● 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期末 (平成28年3月31日)	当期末 (平成29年3月31日)		前期末 (平成28年3月31日)	当期末 (平成29年3月31日)
<b>(資産の部)</b>			<b>(負債の部)</b>		
<b>流動資産</b>	<b>46,336</b>	<b>45,220</b>	<b>流動負債</b>	<b>26,093</b>	<b>19,863</b>
現金及び預金	4,539	6,531	買掛金	12,235	11,869
受取手形及び売掛金	30,097	27,535	短期借入金	8,159	1,637
商品及び製品	2,398	2,195	1年内返済予定の長期借入金	2,067	1,499
仕掛品	676	679	リース債務	2	5
原材料及び貯蔵品	6,237	5,438	未払費用	1,707	1,757
繰延税金資産	445	398	未払法人税等	496	1,177
その他	2,290	2,887	賞与引当金	400	362
貸倒引当金	△348	△446	役員賞与引当金	44	91
			その他の	980	1,464
<b>固定資産</b>	<b>29,102</b>	<b>28,998</b>	<b>固定負債</b>	<b>5,672</b>	<b>6,829</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>22,574</b>	<b>21,695</b>	長期借入金	3,063	3,911
建物及び構築物	6,911	6,481	リース債務	9	4
機械装置及び運搬具	6,629	5,993	繰延税金負債	639	861
工具、器具及び備品	648	661	債務保証損失引当金	38	19
土地	8,363	8,529	退職給付に係る負債	671	612
リース資産	17	14	資産除去債務	84	85
建設仮勘定	4	15	その他の	1,164	1,335
<b>無形固定資産</b>	<b>398</b>	<b>322</b>	<b>負債合計</b>	<b>31,765</b>	<b>26,693</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>6,129</b>	<b>6,980</b>	<b>(純資産の部)</b>		
投資有価証券	5,308	6,131	<b>株主資本</b>	<b>42,317</b>	<b>45,183</b>
長期貸付金	2	38	資本金	4,736	4,736
繰延税金資産	297	271	資本剰余金	4,394	4,358
退職給付に係る資産	5	4	利益剰余金	33,245	36,123
その他	823	811	自己株式	△58	△34
貸倒引当金	△307	△277	その他の包括利益累計額	800	1,712
<b>資産合計</b>	<b>75,439</b>	<b>74,218</b>	その他有価証券評価差額金	1,291	1,863
			繰延ヘッジ損益	△273	△29
			為替換算調整勘定	6	△19
			退職給付に係る調整累計額	△224	△102
			非支配株主持分	555	629
			<b>純資産合計</b>	<b>43,673</b>	<b>47,524</b>
			<b>負債純資産合計</b>	<b>75,439</b>	<b>74,218</b>

● 連結損益計算書

(単位：百万円)

	前期 (平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで)	当期 (平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで)
売上高	170,172	171,054
売上原価	154,158	153,810
売上総利益	16,014	17,243
販売費及び一般管理費	12,591	12,465
営業利益	3,423	4,778
営業外収益	614	311
受取利息	6	1
受取配当金	98	116
持分法による投資利益	7	6
貸倒引当金戻入額	158	4
債務保証損失引当金戻入額	6	19
保管料収入	181	—
受取賃料	53	62
その他	101	100
営業外費用	304	98
支払利息	63	45
保管料原価	169	—
株式交付費	29	—
為替差損	24	22
その他	17	31
経常利益	3,733	4,991
特別利益	23	29
固定資産売却益	3	3
投資有価証券売却益	0	7
ゴルフ会員権売却益	0	—
補助金収入	19	18
特別損失	41	143
固定資産除売却損	22	27
投資有価証券評価損	13	—
ゴルフ会員権評価損	5	2
減損損失	—	113
税金等調整前当期純利益	3,715	4,877
法人税、住民税及び事業税	889	1,526
法人税等調整額	262	△113
法人税等合計	1,152	1,412
当期純利益	2,563	3,464
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△46	41
親会社株主に帰属する当期純利益	2,609	3,423

● 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前期 (平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで)	当期 (平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	5,028	10,219
投資活動による キャッシュ・フロー	△7,416	△1,470
財務活動による キャッシュ・フロー	5,765	△6,758
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△2	1
現金及び現金同等物の 増減額	3,375	1,992
現金及び現金同等物の 期首残高	1,153	4,529
現金及び現金同等物の 期末残高	4,529	6,521

# クローズアップ <マルナカ>

## 売上・利益ともに過去最高を更新

売上高

1,710億54百万円

2期連続

営業利益

47億78百万円

7期ぶり

経常利益

49億91百万円

17期ぶり

親会社株主に帰属する当期純利益

34億23百万円

2期連続

### 最高益更新の主な要因

#### ◆ 畜産飼料の販売量増加

- ・業務提携の効果
- ・新製品を起点に、養牛用・養豚用の販売が好調
- ・お客様の要望に応える新製品の投入

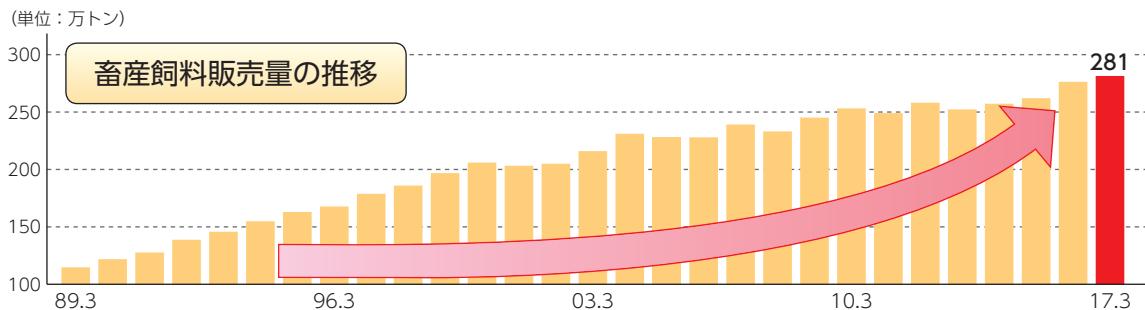
#### ◆ 水産飼料の業績伸長

- ・戦略製品の拡販により、販売量・利益ともに増加

#### ◆ コストダウン

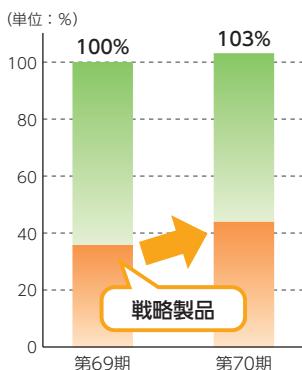
- ・業務提携による生産体制の全体最適化
- ・原料調達時のスケールメリット
- ・地道な生産性向上活動の継続・強化

## 畜産飼料の販売量は着実に伸びています



## 水産飼料の好調は戦略製品がけん引

### 水産飼料販売量



### ◆ 水産飼料 戦略製品

- ① 生臭くない魚を作る飼料
- ② 脂が乗っているのに、あっさりとした魚を作る飼料

### ◆ 戦略製品からできた特性ある水産物

「産地の味を食卓へ」をコンセプトに、産地ならではの魚のおいしさを食卓に届けるため、お茶カテキン、コンブなどの成分を配合した肉質改善飼料でブリを仕上げます。魚の生臭さがなく、血合肉が長時間鮮紅色を保ちます。



プレミアムブリ

# 株式の状況

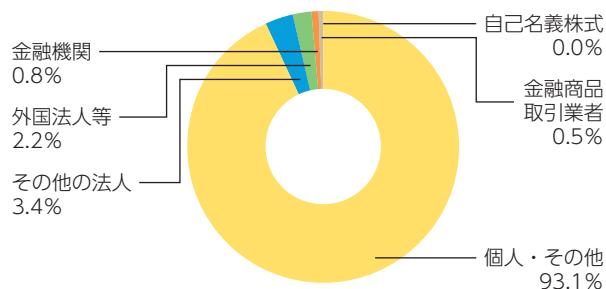
## 株式状況 (平成29年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 80,000,000株
- 発行済株式の総数 30,371,908株
- 株主数 4,620名
- 大株主

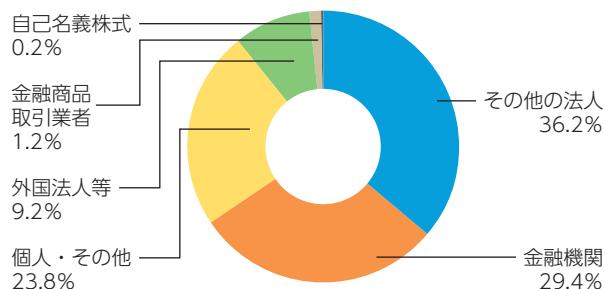
株主名	持株数 千株	持株比率 %
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,112	6.96
日本生命保険相互会社	1,486	4.90
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,000	3.29
豊田通商株式会社	945	3.11
日本ハム株式会社	945	3.11
伊藤忠飼料株式会社	945	3.11
平野殖産株式会社	893	2.94
株式会社横浜銀行	815	2.68
東京海上日動火災保険株式会社	754	2.48
丸紅株式会社	752	2.48

(注) 持株比率については、自己株式(54,347株)を控除して算出しております。

### 所有者別株主比率



### 所有者別株式比率



# 会社概要・拠点紹介

## 会社概要 (平成29年6月29日現在)

- 会社名 中部飼料株式会社  
CHUBU SHIRYO CO., LTD.
- 本店所在地 愛知県知多市北浜町14番地6
- 本部所在地 名古屋市中村区名駅南1丁目27番2号  
日本生命笹島ビル17階
- 本部TEL 052-562-2010
- 設立 昭和24年3月24日
- 資本金 4,736百万円

## 取締役及び監査役

代表取締役会長	平野	宏
代表取締役社長	久光	正一郎
専務取締役	藤田	京一
専務取締役	平野	晴信
常務取締役	牧田	健二
常務取締役	近藤	祐司
取締役	伊藤	敏宏
取締役	小林	洋哉
取締役	酒井	映子
常勤監査役	伊藤	隆文
監査役	松林	茂晴
監査役	岩佐	和彦

(注) 取締役小林洋哉及び酒井映子並びに監査役松林茂晴及び岩佐和彦は、社外役員であります。



## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所 公告の方法	東京証券取引所・名古屋証券取引所 電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.chubushiryo.co.jp/">http://www.chubushiryo.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

### (ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



## 当社ホームページを リニューアルしました

当社のホームページでは、会社概要やIRの最新情報などをご参照いただけます。  
なお、スマートフォンにも対応しております。

<http://www.chubushiryo.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。